

化学療法レジメン登録用紙

登録日： 2007年 8月 8日	最終改訂日： 2020年 4月 7日
1、 診療科名 (泌尿器科) 部長名 (畠田 裕樹)	
2、 対象疾患名 (胚細胞腫瘍) 略名 (GCT)	
3、 化学療法名 (BEP 療法 (泌尿器科))	

Day1

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 5
①	Iv	生食シリソジ 10mL (ルート確保用)	—	↓				
②	Div	KN3 号 500mL	120 分 250mL/時	↓	↓	↓	↓	↓
③	Div	メイロン 40mL 生理食塩液 1000mL	240 分 260mL/時	↓	↓	↓	↓	↓
④	PO	アプレビタントカプセル 125mg	化学療法 1 時間前	↓				
⑤	PO	アプレビタントカプセル 80mg	1×朝食後		↓	↓	↓	↓
⑥	Div (側管)	グラニセトロン 3mg/50mL デキサート (6.6mg) 注 1.5V	30 分 200mL/時	↓	↓	↓	↓	↓
⑦	Div (側管)	ブレオ 30mg/body 生理食塩液 100mL	30 分 200ml/時		↓			
⑧	Div (側管)	エトポシド 100mg/m² 5% ブドウ糖液 500mL	90 分 流速を算出 すること	↓	↓	↓	↓	↓
⑨	Div (側管)	シスプラチニン 20mg/m² 生理食塩液 500mL	120 分 流速を算出 すること	↓	↓	↓	↓	↓
⑩	Div (側管)	生理食塩液 50mL (ルートフラッシュ用)	全開	↓	↓	↓	↓	↓

Day6～8、Day10～15、Day17～Day21 は休薬

Day9、Day16

	投与方法	薬剤	投与時間	Day 9	Day 16
①	Iv	生食シリソジ 10mL (ルート確保用)	—	↓	↓

②	Div	生理食塩液 50mL (ケモセーフルート確保用)	—	↓	↓
③	Div	ブレオ 30mg/body 生理食塩液 100mL	30 分 200ml/時	↓	↓
④	Div	生理食塩液 50mL (ルートフラッシュ用)	全開	↓	↓

4、投与間隔

3週間を1クールとする

5、治療期間

リスクにより 2~4 クール実施する

6、備考（1日または1回投与量の上限値、投与量の変更基準、処方例等）

注意：

- ① DLT：肺毒性（ブレオ）、骨髓抑制（エトポシド）、腎障害（シスプラチン）
- ② ブレオの総投与量は 300mg（力価）以下とする。ただし、胚細胞腫瘍に対し、確立された標準的な他の抗癌剤との併用療法にあっては 360mg（力価）以下とする。
- ③ 可塑剤として DEHP [di-(2-ethylhexyl)phthalate : フタル酸ジ-(2-エチルヘキシル)] を含むポリ塩化ビニル製の点滴セット、カテーテル等を使用した場合、DEHP が溶出するので、DEHP を含むポリ塩化ビニル製の点滴セット、カテーテル等の使用を避けること。

文献：

- 1) Williams SD et al. Treatment of disseminated germ-cell tumors with cisplatin, bleomycin, and either vinblastine or etoposide. N Engl J Med 1987; 316: 1435-1440
- 2) Nicols CR et al. Randomized comparison of cisplatin and etoposide and either bleomycin or ifosfamide in treatment of advanced disseminated germ cell tumors: an Eastern Cooperative Oncology Group, Southwest Oncology Group, and Cancer and Leukemia Group B Study. J Clin Oncol 1998; 16: 1287-1293
- 3) Saxman SB et al. Long-term follow-up of a phase III study of three versus four cycles of bleomycin, etoposide, and cisplatin in favorable-prognosis germ-cell tumors: the Indian University experience. J Clin Oncol 1998; 16: 702-706